

令和7年8月

企業生命の創造とイノベーション (SDNET-300) 基調講演

「みなさまの健康な体づくりをサポートしたい」
そんな想いで、育てています。

群馬県前橋市の赤城山の風を感じながら、「水耕栽培」に取り組む
有限会社エスアンドエム。

三つ葉を年間通じて安定的に出荷し、自然に立ち向かうのではなく、
自然に寄り添い、順応する経営に取り組んでいます。

有限会社エスアンドエムを創業し率いてきた八須賀松夫氏に、いか
にして理念を確立し、浸透させ、育ててきたか、お話いただきます。

講演
日時

2025年
8月22日 金 13:10-14:40

一般社団法人日本創造経営協会9階 [SDホール]
東京都文京区本郷2-10-9 富士ビル

13:10～14:40

「有限会社エスアンドエムの
事業開発への取り組み」

講師: 八須賀 松夫

(有限会社エスアンドエム 代表取締役社長)



■有限会社エスアンドエムの経営理念

1. 生命の源『食』をつつがなく供給し続けること
2. ここに集う皆さんが人に優しく、健康であり続けること
3. 自然に立ち向かうのではなく、自然に寄り添い順応すること

下記QRコードより
お申し込みください

ご予約
お問い合わせ

一般社団法人日本創造経営協会 事務局

TEL:03-3816-1451



<八須賀松夫氏の経歴>

中央情報経理専門学校卒業後、28歳にて起業、複数（5社）の会社を立ち上げ

サラリーマン時代、会計事務所、外資系証券会社にて決算書作成、M & Aを学び、会計知識を蓄え、起業し経営開始から21年目となる。

現在は、農業事業、広告イベント事業、農業コンサル事業の3事業を主として行っており、有限会社エスアンドエム代表取締役社長として活躍中。またその経験を活かし、社会取締役にて中古車販売会社、食品加工会社、不動産会社など複数の社外取締役として活動。農業経営の成功事例として複数メディアに取材・掲載されている。

- ・ 週間ダイヤモンド：週刊誌：2024年5月11日号『儲かる農業2024 J A、農水省緊急事態』中小キラリランキング 全国2位
- ・ 週間ダイヤモンド：週刊誌：2025年4月5日号『儲かる農業2025 米騒動の裏で膨らむ商機』中小キラリランキング 全国2位

その他、多数

<聞きどころ>

1. 注目の背景

群馬県前橋市にある有限会社エスアンドエムは、三つ葉の水耕栽培に特化した事業を展開し、異業種から農業へと転身した八須賀社長の革新的な経営により注目を集めている。

2. 異業種から農業へと踏み出した決断

かつて会計事務所や証券会社でM&A業務に従事していた八須賀社長は、心筋梗塞を二度経験し、命を守るために働き方を根本から見直した。医師の助言もあり、農業という全く異なる分野へと進む決断を下したのである。

3. 未経験からの挑戦と徹底した準備

農業経験は皆無であったが、会計力や事業計画立案の能力を武器に、あえて高い参入障壁を持つ三つ葉の水耕栽培に挑戦した。地元農家に何度も足を運び、ようやく研修の機会を得るなど、地道な努力を重ねた。さらに、全国100ヶ所以上の栽培施設を視察し、270通りものシミュレーションを実施することで、緻密な計画のもと独自の栽培ハウスを構築・運営している。

4. 技術導入と安定供給体制の確立。

夏場の高温に弱い三つ葉の特性を克服するため、大型換気扇や軒高の高いハウスを導入し、温度管理を徹底。これにより年間を通じて安定した出荷体制を確立し、農協との契約出荷により効率的な流通網も構築された。

5. 次世代への継承と地域・従業員への配慮

また、後継者育成の一環として、すでに実務の多くを息子に引き継いでおり、事業の持続可能性も意識している。さらに、年間135日の休日制度や理学療法士による全体の導入など、農業における「3K」のイメージを払拭する職場環境づくりにも取り組んでいる。

経営仲間である株式会社田村屋の水耕栽培参入に際しては技術支援を行い、企業間連携を通じて地域農業の課題解決にも貢献している。幼少期の貧困体験を背景に、「二度と貧しい暮らしはしたくない」という強い想いが、八須賀社長の挑戦を支える原動力となっている。エスアンドエムの取り組みは、農業をビジネスとして成立させ、次世代へと継承していく新たなモデルとして高く評価されている。

企業名	有限会社エスアンドエム	代表者	代表取締役社長	八須賀 松夫
設立年月日	2004年8月3日	資本金	300万円	
事業内容	農業（水耕栽培）			
所在地	〒379-2117 群馬県前橋市二之宮町2384-1			
	TEL：027-212-9372	FAX：027-212-9320		